



公明党
市川 陽子
議員

福祉施策について

問 発達障害児の早期発見について、どういった対応をしているか。

答 保健福祉部長
3歳児健診10回のうち6回は、心理発達相談員を加えています。全ての3歳児健診に配置できるように努力したいと思います。4歳児以降は、各こども園、幼稚園等で行う巡回発達相談で確認しています。

問 閉症やアスペルガー症候群の人を支える改正発達障害者支援法に対し、教育現場での個別の支援計画、指導計画の作成や、事業主に雇用の確保が求められているが、市の対応はどうか。

答 教育部長 一人一人の障がいの状況に応じたきめ細やかな指

導を行えるよう、本人や保護者の願い、目標、支援内容、支援方法等を共有し、関係機関と連携を図っています。

問 通常学級での場合はどうか。

答 教育部長 特別な教育支援が必要と思われ児童生徒に、作成するよう進めています。

問 教育長 障がいのある幼児、児童、生徒一人一人の教育的ニーズを理解しながら、自立と社会生活に向けた特別支援教育が推進されるように取り組んでいきたいと思えます。

問 簡易マザーズホームは改装から20年が経つ。施設の耐震性やアスベスト対策はどうか。

答 保健福祉部長
耐震調査は実施し

ていません。アスベストは、分析調査で2階の天井部分に検出されましたが、飛散のおそれは少なく、また、現在2階部分は使用していません。

問 今後、施設をどのようにしていくのか。

答 市長 将来的に公的な施設があいてくる予想のなか、福祉協議会と相談しながら、進めていきたいと思っています。

問 ふれあいデイサービスの利用はどうか。

答 保健福祉部長
平成12年4月に開設し、9月1日現在、介護保険の対象外の69名で、男性12名、女性57名。地域別は、成東52名、山武6名、松尾7名、蓮沼4名です。

問 今後、団塊の世代が占める割合が増加傾向である。各地域に施設を増やしてはどうか。

答 保健福祉部長
今後、地域における市民の方々のボランティア活動等々を通し、増えればよいと考えています。



公明党
長谷部 竜作
議員

防災について

問 台風による倒木被害が多かったが、危険箇所をあらかじめ発見し、伐採処理などをしてはどうか。

答 都市建設部長
倒木被害を教訓とし、

問 B型肝炎のキャリア化のリスクを防ぐために、対象外の1歳児以上に対しても、市の任意助成事業で接種の推進をしてはどうか。

答 保健福祉部長
国の定めた年齢に沿った中で実施していきたく考えています。

B型肝炎の定期接種について

問 ファシリテイマをファシリテイママネジメントの手法

答 総務部長
行政目的以外の市有財産

問 ファシリテイママネジメントの手法

答 総務部長
市有財産

を使った今後の活用についてはどうか。

答 総務部長
市有財産を活用するためにデータ収集に努めてきましたが、建築当初のデータはあるものの、改修等のデータが蓄積されていないため、詳細データの収集には至っておりません。現状では、資産台帳としての活用を考えています。

問 公共施設の見える化の為、公共施設白書を作成してはどうか。

答 総務部長
公共施設白書をつくる上でデータが不足している状況です。公共施設等総合管理計画をもとに、現状や将来に向けた公共施設の統廃合の必要性など、市民にお知らせをし、公共施設の見える化をしたいと考えています。

